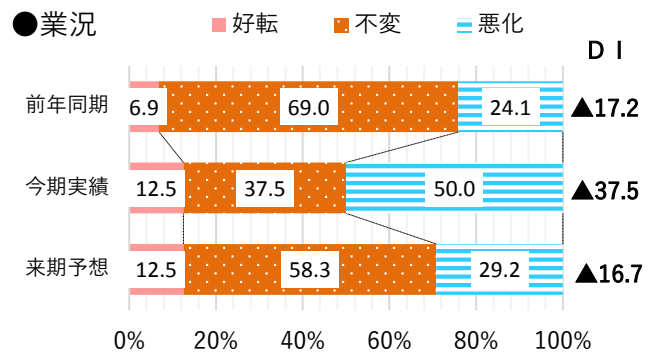


# 小 売 業

## 業況、売上、採算

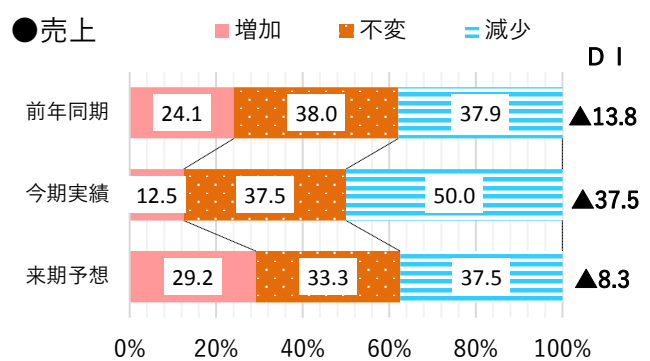
今期(2019.4~6)の業況判断DIは▲37.5で、前年同期(2018.4~6)と比べ20.3ポイント低下しました。

来期(2019.7~9)は、今期と比べ業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



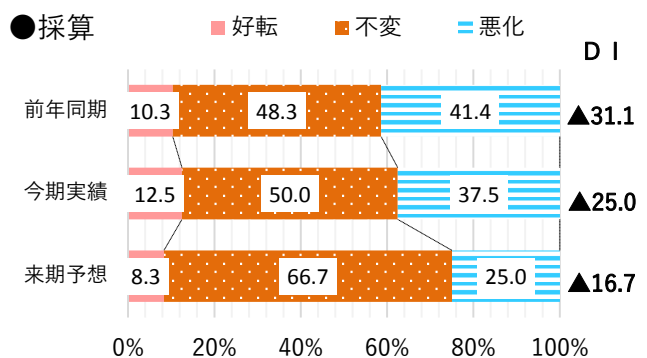
今期の売上高DIは▲37.5で、前年同期と比べ23.7ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ売上の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。

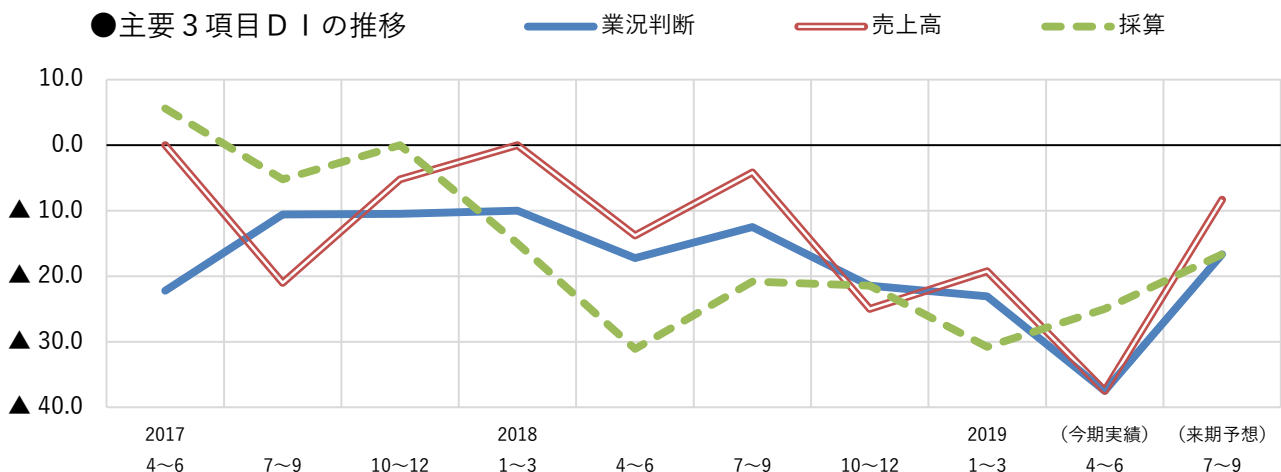


今期の採算DIは▲25.0で、前年同期と比べ6.1ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ落ち着いた動きが出るものの、採算の悪化傾向が続くと予想しています。



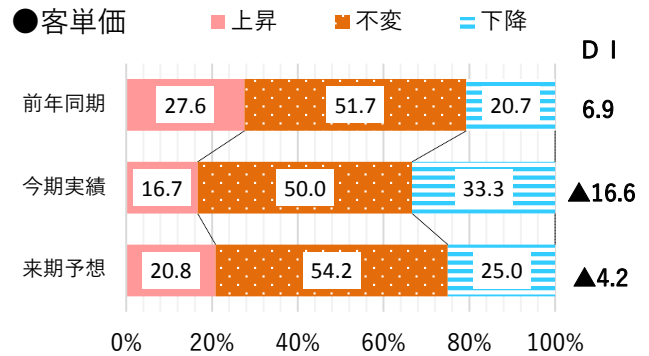
●主要3項目DIの推移



客単価、客数

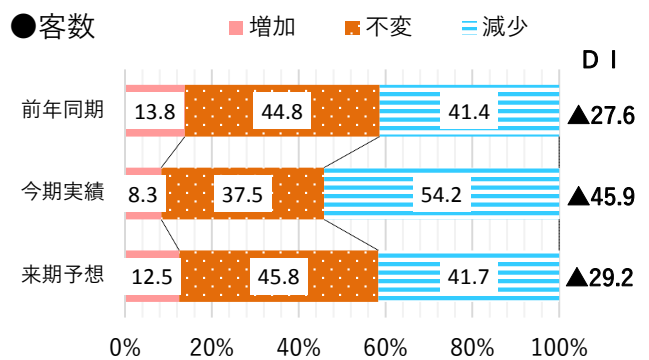
今期の客単価DIは▲16.6で、前年同期と比べ23.5ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ客単価の下降傾向が弱まると予想しています。



今期の客数DIは▲45.9で、前年同期と比べ18.3ポイント低下しました。

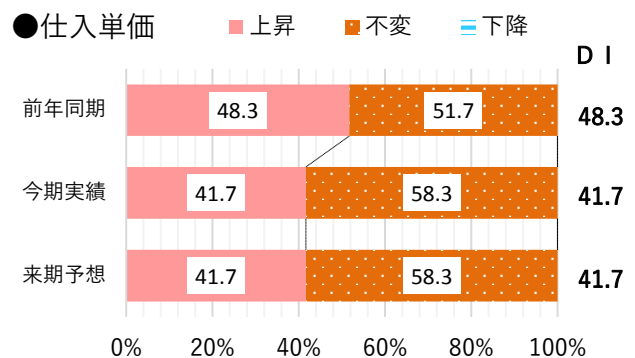
来期は、今期と比べ落ち着いた動きが出るものの、客数の減少傾向が続くと予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

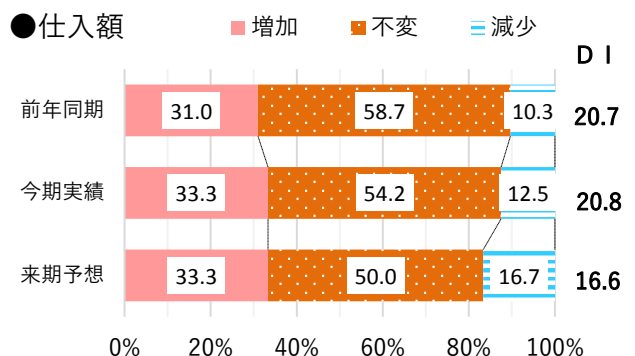
今期の仕入単価DIは41.7で、前年同期と比べ6.6ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ横ばいを予想しています。



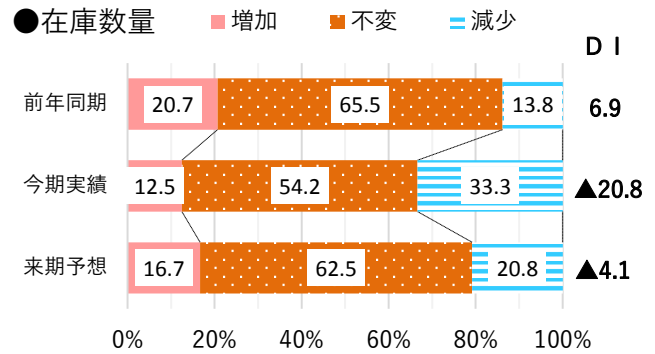
今期の仕入額DIは20.8で、前年同期と比べ0.1ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ仕入額の増加傾向が弱まると予想しています。



今期の在庫数量DIは▲20.8で、前年同期と比べ27.7ポイント低下しました。

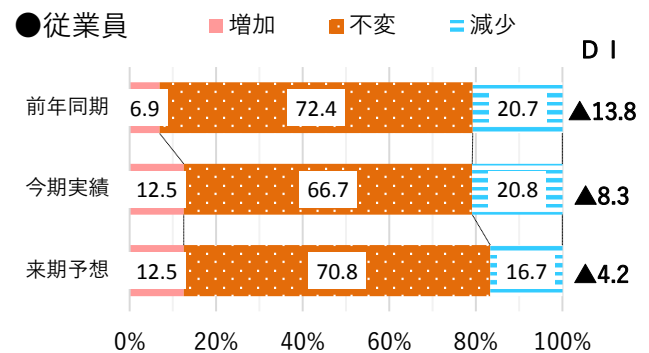
来期は、在庫数量の減少傾向が弱まると予想しています。



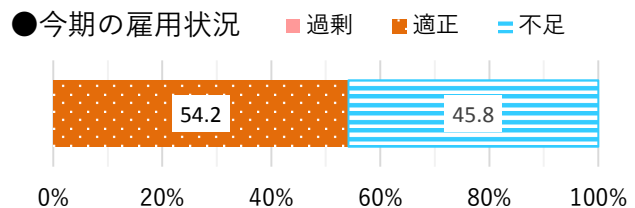
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲8.3で、前年同期と比べ5.5ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ落ち着いた動きが出るものの、従業員数の減少傾向が続くと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は54.2%、不足していると回答した企業の割合は45.8%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、小売業全体の45.8%を占めています。

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	11
	不足	5
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	4

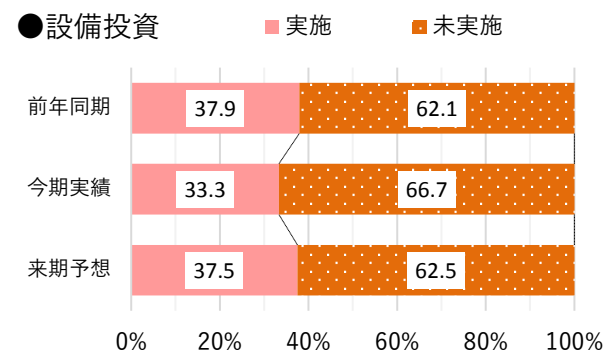
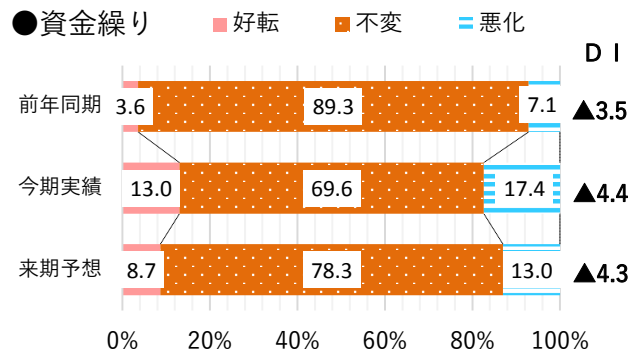
資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲4.4で、前年同期と比べ0.9ポイント低下しました。

来期は、今期と比べほぼ横ばいを予想しています。

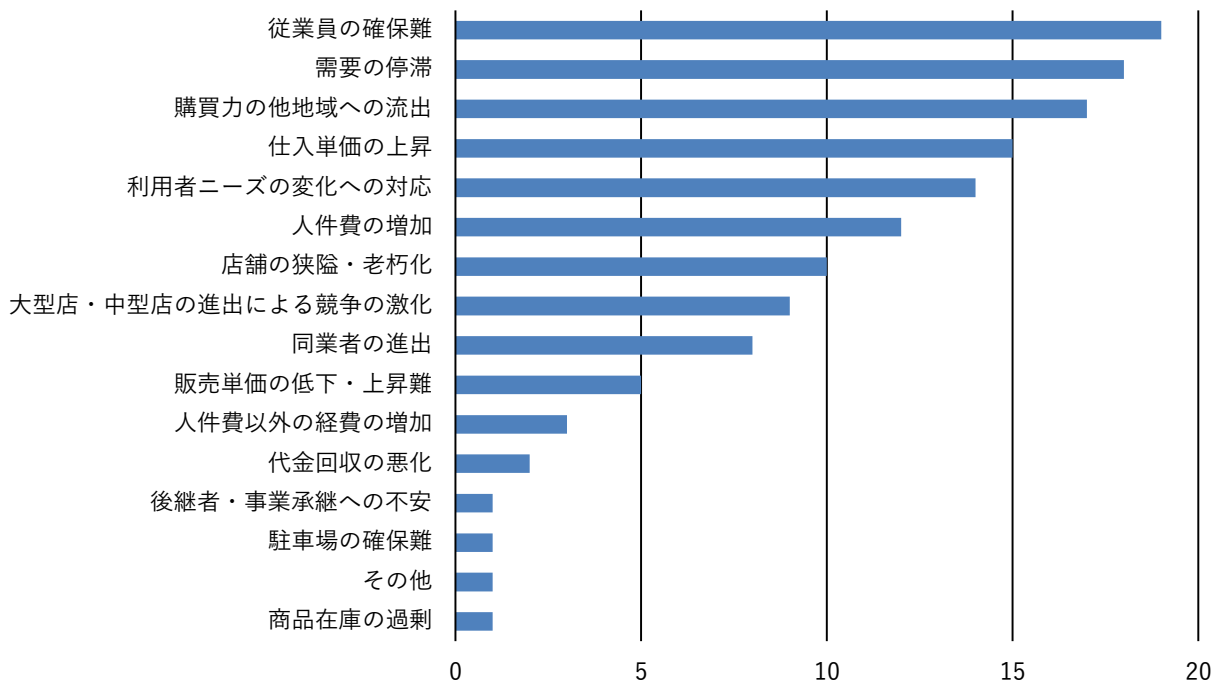
設備投資を実施した企業の割合は33.3%で、前年同期と比べ4.6%減少しました。投資内容は1位が「OA機器」、2位が「車両運搬具」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は37.5%で、今期と比べ増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「従業員の確保難」、2位が「需要の停滞」、3位が「購買力の他地域への流出」の順です。



## 企業の声

## [今期の業況について]

- 4月の売上は好調だった。10連休を控え、買い物需要が高まったためであると推察される。一方、5月の売上は減少した。キャッシュレス決済、ネットショップでの販売が伸長した。(食料品小売)
- 昨年秋季にスーパーが開業したことで、売上、客数が減少し、人材確保が一層難しくなった。(コンビニ)
- 年号が変わったため、売上が増加した。(衣服・身の回り品小売)
- 仕入額の増加傾向が強まっている。(衣服・身の回り品小売)
- 業況は悪化傾向にある。(衣服・身の回り品小売)
- 商品力が安定しており、顧客管理も徹底しているため、売上は維持できている。高齢者の免許証返納の動きが影響しているのか、客数は減少傾向にある。給与のベースアップなどを通じた待遇改善が功を奏し、人材は確保できている。(自動車小売)
- 値引きを抑えて、商品単価をアップした。札幌などへの個人客流出により、顧客が減少した。従業員は減少したが、人件費が増加した。(自動車小売)
- 消費税増税を控え、需要が高まっている。(自動車小売)
- 商品のフルモデルチェンジを行った。(自動車小売)
- 昨年同期と比べ、悪化した。(自動車小売)
- 求人を出しても応募が少ない。人材確保が困難になっている。(ドラッグストア)
- 客数の減少を伴う売上の減少は、ここ数年続くと思われる。小売業の事業所数が減少しているためか、客単価は上昇し続けている。(大型店)
- 生鮮品に力を入れ、客数の増加を図った。品揃えを強化し、上階への誘導を図った。(大型店)
- 売上の低迷と採用難が課題である。退職者の補充が追い付かず、苦勞している。(大型店)

## [来期の業況について]

- 観光、宿泊施設、飲食店向けの売上が伸長する見込みである。個人のキャッシュレス決済は一層増えると見込まれるので、準備は急務である。(食料品小売)
- 改元に伴い、4～6月期の売上が増加していた分、減少する見込みである。(衣服・身の回り品小売)
- 消費税増税前後の月は、売上の極端な増減が懸念される。(衣服・身の回り品小売)
- 改善の見込みがなく、不安が拡大する見通しである。(衣服・身の回り品小売)
- 商品の値上げが一段落するため、安定を望む。(衣服・身の回り品小売)
- 消費税増税前の駆け込み需要が見込める。社内では育休の取得が増加傾向にあり、働き方改革への対応を一層進めたい。(自動車小売)
- 高齢化に伴う、車保有人口の減少が進むと予想される。(自動車小売)
- 消費税増税前に仕入を行いたい。(自動車小売)
- 人材確保が最大の課題である。(自動車小売)
- 消費増税や、年金問題が、消費マインドの悪化や買い控えにつながるのではないかと。(ドラッグストア)
- 増税前は、売り場の活性化を計画しており、業況の好転を期待している。(大型店)
- 客数が回復傾向にあるので、前年と同程度の売上を確保できる見込み。(大型店)